

3年目のコロナ感染予防対策とともに2022年度

監督 石橋 千宜

今年度も新型コロナウイルスとの戦いだったが徐々に緩和され、大学の大会が開催されるようになった。しかし、学生への感染は国内の罹患状況と同様に容赦しなかった。西日本大会、インカレ新人大会予選大会に出場できなかった。折角のチャンスを逃した悔しい思いを秋の九州リーグ戦にぶつけていくことにした。例年以上に練習時間を確保するために体育館が使いにくい月曜と水曜日は練習休みとするが、土曜・日曜日は時間が取れることもあって練習や練習試合はもちろん、中高生に技術指導をする合同練習会を行いバスケットボールに集中した。このことは1年生松林更紗(サラ)と小森優希(ニコ)の急激な上達を見ることになった。

今年も4年生は重西菜々子(ハチ)がひとりのため、チーム力からすると辛く苦しい年度でもあった。しかし、4年生になった重西は、責任感から見違えるように技能面の向上とも精神面がさらに強くなってチームを引っ張って行った。こうなると5名の3年生柴田渚(セナ)、中島美空(スイ)、森山理央(シン)、川口美月(コウ)、田崎璃穂(カホ)と4名の2年生松岡姫乃(ヒメ)、松田美春(シュン)、西山亜佐(アサ)、早川千華(イト)の下級生がその学年以上の力量をつけ、他大学とリーグ戦を戦わないといけない。ということで、前述したような練習日程で、強引に進めることになった。

福岡県リーグは6位になり初めて入れ替え戦を戦い、1部残留とした。九州春季トーナメント戦は、コロナ感染のため棄権チームもあって変則なトーナメント戦になったが、準々決勝で九州共立大学を破ったが、準決勝は福岡大学に、3位決定戦は西南女学院大学に続けて敗れ、4位という結果でした。もう一つ上に行くことはできなかったが、来年度も4シードという財産を次年度に残すことは出来た。加えて良いところで3P シュートを決めてきた重西が大会優秀選手に選出された。

ここまでは当初の目標通りにすすめたが、ここでコロナの感染者がでたことで、前述の大会に参加が出来なくなり、残す大会はリーグ戦だけとなった。

今年のリーグ戦は、コロナ禍中の2年間リーグの入れ替え戦が無く、下部の優勝大学は上位部に自動昇格していたため1部リーグは8チームになっていた。先ず8チームによるリーグ戦を行い、Firstステージの順位を決める。ここで上位6チームに残らなければsecondステージに進めず、7位8位は自動降格となり、この時点でリーグ戦は終わってしまう。これが私に焦りや不安から指導にもブレが出たように感じる。「部員に悪かったなあ」と反省しています。

何とか6位に残留をしてsecondステージを戦い、もっと経験を積みたかったのですが、Firstステージを全敗したことからここでリーグ戦は終わってしまった。2回戦を戦う1部リーグからするとあっけないリーグ戦の打ち切りで、心に穴の開いた終わり方だった。このようにならないためにもチャンスのある6位に残ることに目標修正を行い、足りない部分の強化と試合経験を増やすために多くの練習試合も行った。特に日本経済大学には数多く出かけて相手をしてもらい、多くのことを学び、効果を上げてリーグ戦に臨むことはできていたと思っている。

条件付きの会場応援ができるようになって、会場に足を運んでいただいた保護者の皆様、OGの皆様、応援ありがとうございました。また、配信されるユーチューブを通じて応援していただき、激励の連絡を頂きました。私たちがいつものように心から支えて頂きました。次年度からは2部でたたかうこととなりますが、経験を多く積んだ部員が多く残っているので、1部に返り咲きインカレ出場を目標に頑張っていきます。